

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(音明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	令和元年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき！」と思える家づくりがわがグループホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいは、皆と力を合わせることによって、生活を送ることができるはずと模索している。たとえ、認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割づくりに着目しながら生活している。日々の活動では、天気の良い日には散歩に出かけ、認知症があっても普通に生活している様子を知らせるのがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみになることとして、外出や外食等も積極的に行っている。春祭りや運動会もチアフル全体の行事として地域も巻き込み行っている。また、児童館の子供たちと七夕会やクリスマス会で定期的に交流を持ち、昔遊びの道具を使っては子供たちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が子供たちの前で腕前を披露する姿が得意げで相互交流に意義を感じている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2372201109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和1年10月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の基本理念で掲げられている思いを職員間で共有しながら、ホームの特徴でもある、ユニット毎に支援を行うことを重視した取り組みが行われている。職員間で利用者の支援内容を検討し、介護計画の内容を共有する取り組みを行いながら、日常の支援及び記録、定期的なモニタリングにつなげている。ホームには、身体状態の重い方も生活を継続できるように、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供や医療面での連携を深める取り組みが行われている。家族との交流にも積極的な取り組みが継続されており、関連事業所と合同で開催している運動会の際には多くの方の参加が得られており、利用者、家族を交えた交流の機会がつけられている。また、職員研修の取り組みについても年間を通じて計画的に実施しており、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り時や、毎月のユニットミーティングには必ず全員で復唱行い実践し、一日を振り返り理念に繋げている。	運営法人の基本理念を職員間で唱和する機会をつくり、利用者への支援につなげる取り組みが行われている。ホーム便りに理念を掲載しており、ホームの方針を家族にも理解してもらい働きかけが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	春祭りや運動会などで交流を図り、気軽に訪問して頂けるように、外出時にも挨拶や会話をし、つながりを大切にしている。	ホーム近隣の地域に代表者及び管理者が生活していることで、日常的に地域の方との交流の機会がつけられている。ホームで行われている行事の際には、地域の方の参加が得られている他にも、ボランティアの方との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議・家族会・チアフル新聞・インターネットにて日常の活動や状況を伝えている。イベントには招待し認知症への理解や支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎月の健康状態や活動や目標などの報告を行い、質問に対的的確に答え、指摘を受けたことを参考にし、常にサービスの向上に活かせるように話し合い、実践につなげている。	会議の際には、ホームの運営状況を報告する取り組みを行い、出席者にホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。また、関連事業所と合同で開催しており、事業所全体の運営状況が報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が携わっている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホーム及び関連事業所から職員が参加し、情報交換等の機会がつけられている。また、地域包括支援センターともケアマネ会に参加する等、定期的及び随時の情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修に取り入れ理解している。やむを得ない場合は管理者を含め、ミーティングを開き、家族様の承諾を得る。行動制限をせず付き添いや見守りを行い安全確保している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わない等、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、運営法人で身体拘束に関する定期的な検討会議や職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様、内部研修やユニットミーティングにおいて、虐待防止に努めている。一人で介助を抱えこまず、チームで協力し合い自分自身にゆとりをもつように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の利用者様にはみえないが、ユニット内で制度について勉強する機会を設けられ活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者やケアマネまたはユニットリーダーが詳しく説明を行い、理解・納得し、安心して利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や面会時においても些細なことでも意見や要望を伺い、運営向上につなげている。	家族会や行事を通じた家族との交流の機会がつくられており、多くの家族の参加が得られている。ホームで独自のアンケートを実施し、家族からの要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月のホーム便り「チアフル通信」の作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット内のミーティングであがった意見や要望を、リーダーミーティングでリーダーが代弁したり、直接、管理者に発言できる環境ができています。	当ホームは、ユニット毎に独自性を持って支援が行われていることで、リーダーを中心に意見交換を行い、職員からの意見等を運営に反映する取り組みが行われている。管理者も年2回の職員面談の機会をつくる等、職員の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課の活用を行い、自己評価・リーダー評価・勉強会参加でキャリアパス給与水準が決められている。面談時、環境や体調面の配慮もされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は選択方式であり興味のある研修に意欲的に参加できている。わかりやすく指導して下さり、また、個別にて時間をさいて質問に丁寧に答えて下さる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や交流会において、情報交換したことをリーダーへ報告し、職員へと申し送られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族様からの情報をもとに、会話から本人様の思いや背景を聞きとり、関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者やケアマネ・リーダーで面談を行い、ご家族様の思いを受け止め、心を開き信頼を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報と本人様を観察し、「今」何を必要としているかを探り、話し合い満足して頂けるよう対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、残されている機能が発揮できるよう、見守りを行っている。自分に置き換えた関わりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の思いを伝え、家族様とコミュニケーションが図れるように仲介に入り、安心して頂けるような関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に訪ねて頂けるように、明るく振舞い、次回へと繋げている。	利用者の中には、入居前からの関係の友人、知人がホームに訪問する等、馴染みの関係継続の機会がつけられている。家族との外出も行われており、外食等に出かけている方や身内の方の冠婚葬祭を通じた交流の機会がつけられている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや役割をつくり、食事などでコミュニケーションを図り、孤立者が出ないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居や看取り後など、ご家族様とリーダーの関係深く、春祭り・運動会などボランティアに参加して下さり交流してみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活において、困難な要望には十分に話し合い、出来る限り、その人その人の思いに近づけるように努力している。	職員間で利用者を担当し、日常的に職員間で情報交換を行う時間をつくり、利用者の意向等を共有する取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスも実施しており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からのアセスメントや本人様との会話から情報収集を行い、職員同士がしっかりと理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、体調面・精神面の状態を確認し、本人様の出来る事の維持に努め、本人様らしく生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の申し送りや毎月のミーティングで、その時の状態を取りあげ、どんなことが適しているかを話し合いプランを立てている。	介護計画は6か月で見直しており、利用者の状態等の変化に合わせた見直しが行われている。毎月のカンファレンスを通じたモニタリングを実施している。また、日常的にも介護記録に計画の内容を記載してあり、日常的なチェックにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や変化、注意点は赤字で個人記録に記載し、プランに沿った支援など細かく記録に残し、話し合い見直し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況・状態に応じて、十分に話し合い、他施設への見直しも考えながら、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	習字・コーラス・手芸・民謡・大正琴・フラメンコ等ボランティアの協力を頂き活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所での主治医はあるが、希望の掛かりつけ医を確認している。ご家族様の協力の元、受診して頂いているが、緊急時や困難な場合は支援している。	協力医とは、定期的な訪問診療や随時の連携が行われており、柔軟な支援が行われている。利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続しており、家族による支援が行われている。また、管理者は看護師でもあり、医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師による看護(月2回)の日に現状報告を密に行っている。状態の変化や対応に困難さがみられた場合は看護師勤務外でも、連絡・相談・指示仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所の主治医に紹介状頂き、適切な治療・ワーカーと連絡取り情報交換し連携を取っている。(介護サマリーや看護サマリーの活用)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護師・ケアマネ・リーダー・ご家族・管理者と十分に話し合い方針を検討し、チームで団結し後悔のない支援を行っている。	ホームには身体状態が重い方も生活を継続しており、看取り支援も含めて、利用者や家族の意向等に合わせた支援が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行いながら、ホームでの生活や医療機関等への意向等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応に備えマニュアル設置している。内部研修に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	3ヶ月に一度、防災訓練行っている。地域の方にも応援お願いしている。	3か月を基本に避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。関連事業所とも連携した取り組みを行い、事業所全体での対応につなげている。水や食料等の備蓄品の確保については、ユニット毎に管理している。	ホームの建物が平面につくられていることで、水害が想定される際には、ホームの向かいにある関連事業所との連携が必要でもある。ホームの取り組みを継続し、利用者の安全確保につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人様の尊厳を大切にし、傷つけないようにプライバシーを守り、声掛けにも気を付けている。…行き過ぎた言動には他の職員と交代し、利用者が安心して過ごせるように支援行っている。	基本理念には、具体的な項目に分け、利用者を尊重した対応を行うことを目指した内容が掲げられており、日常的に職員間で唱和し、職員への注意喚起にもつながっている。また、職員の接遇に関する研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中に本人様の思いや希望を取り入れ、発言できるように導いている。自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ペースはあるが、その人らしさを大切にし、一日を大切にし、有意義に過ごせるように見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度、移動美容院に来て頂いている。季節に合った服装選びの支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用様の出来る範囲で調理等に参加頂き、個々の残存機能を活かし取り組んでいる。配膳・下膳も困難になっている方増えている。腰かけて手伝って頂いている。	利用者の好みや嗜好等にも配慮しながらメニューを考え、利用者も買い物、調理、片付け等に参加する取り組みが行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の配慮が行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量をつけ、一日の必要量を確認している。体調に合わせ量や、形体・調理の工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施している。夜はポリドントで洗浄・消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、個々に定期的に声掛け誘導介助を行っている。	利用者の排泄状態の記録を残し、職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に排泄状態の維持、改善につなげている。また、利用者の中には、排泄に関する医療面での支援が行われている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の調整や野菜を多く取り入れ、適度な運動を促し自然排便を心掛けている。時には内服薬の使用も行いながら便秘症の解消を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ゆったりと入浴できるよう心掛けている。…入浴日は決まっているが、希望があれば、自由に入浴できるようになっている。	利用者が1日おきの週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方についても職員間で声かけ等を検討しながら、定期的な入浴につなげている。また、身体状態が重い方に合わせた職員複数での入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気に良い日は、布団干しやシーツ交換で快適に眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の持病を理解し、薬剤情報の確認を行っている。服用後、異変が見られた場合は、看護師に報告し指示を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に合わせ、興味・特技を引出し楽しめるような支援をしている。…役割自主的に行って下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月に1度必ず遠足へ出掛け、刺激のある生活を提供している。車椅子の方への支援も個別ケアにて外出支援を実施している。	季節や天候にも合わせながら、利用者が日常的にホームの近隣を散歩する等、外出を行う機会がつくられている。また、ホームではユニット毎に外出行事が行われており、利用者の希望や職員間で外出先を検討しながら、利用者の楽しみにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で管理している方も見えるが、家族様の希望で職員管理、希望があれば買い物支援行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本的に電話申し出があれば、自由に使用できる様になっている。・携帯電話持ち込み可としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるよう作品の展示や、ご家族様により生け花提供して下さる。・壁掛け作成をレクリエーションに取り入れ、次の月のカレンダー等手作りし展示している。	ホーム内は広めの空間が確保されており、窓も大きいことで採光にも優れた生活環境となっている。リビングにはソファが配置されており、利用者がゆったりと過ごすことができる配慮が行われている。また、季節感にも配慮した飾り付け等も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に自室で過ごされたり、フロアで他者とテレビ観たり、会話したり、くつろがれたり、それぞれに居場所見つけられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅と思えるように、置き物や写真を飾り、安心して過ごせるように、工夫されて見える。	居室には、利用者の入居前からの馴染みの品々の持ち込みが行われているが、ホームで家具類が備え付けられていることで、シンプルな雰囲気のある居室の方もいる。家族の写真や好みの物等を飾る等、利用者の意向に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア・トイレ・脱衣所・浴室と手すり付け、安全確保している。		